

## 農の豊かさへ切なる願望―大関松三郎

高橋 実

### 初めに

大関松三郎の名を知ったのはいつの頃だったであろう。昭和四十年初めころ私は「作文教育」に熱を入れていた。おそらくその中であろう。百姓の生まれの少年詩人としてその詩は同じ境遇にあったわたしの心を引きつけた。その松三郎は昭和の大正の終わり、十人兄妹の三番目として生まれ、十九歳で死んだ。生活綴方Ⅱ子供たちに生活の事実を綴らせて（書かせて）、もの見かた・考え方・感じ方・生き方を育て、文章力を高める教育方法。戦後は、作文教育とも言っている。

一九四〇年（昭和一五）東北から始まった生活綴方運動に対する弾圧は、「綴方の教育にことよせて、貧困と矛盾に目覚めさせ、子供たちを革命戦士に育てるための教育」とデッチ上げの治安維持法違反によつて、全国で約三〇〇名の現職の公立小学校の教師が検挙された。松三郎の師寒川道夫もその「生活綴り方運動」で治安維持法により処罰され、服役することになった子供達に生活の真実を書かせることによつて罪になるということはどういうことか。こんなことがあつてもよいのだろうか。

犯罪を計画段階から処罰する共謀罪が強行採決によつて成立した。なにやら戦前の治安維持法を連想させるような法律である。これを機会にこの少年詩人の真実に迫ってみたいと思つた。

### 松三郎の生家を訪ねる

平成二十九年九月三日、思い立って長岡市下下条の大関家の生家を訪ねた。数年前その生家の前に碑が建てられた時訪ねたが、そこが何処であったか記憶にない。『大関松三郎の四季』（南雲道雄）のあつた「下々条一二九四番地」をナビに入れて車を走らせた。目的地近くで車を降り、ちょうど作業していた人に声をかけた。お名前は吉川一幸という方だった。番地は確かこのあたりだが、「大関松三郎」という人は聞いたことがない。近くにいた父親らしい人に聞いてもわからないという。でも大関という名字はこのあたりに多くあるといわれるので、すぐ近くの教えられた家を訪ねた。大関八郎という方だった。大関さんは松三郎の事を知っていて、DVDもあるという。早速それをお借りして、松三郎の生家に向かった。

松三郎の生家は下々条三丁目の福島江沿いに立っていて、すぐ前に松三郎の墓と寒川道夫の碑が二基並んで立っていた。墓には右のような文面で書かれていた。写真は逆光でうまく取れない。すぐ目の前には田園地帯で、遠くに新幹線の高架橋が見えた。

昭和十九年二月山口縣防府市防府海軍通信隊同年十二月マニラ通信隊赴任の途中同月十九日 十九才で支那海方面に於て戦死

家の前で声をかけてみると、返事があつて「松三郎の話を知りたい」というと、中に招じ入れて下さった。相手をして下さったのは松三郎の弟大関秋一さんだった。そして松三郎の兄弟の名前を覚えていただいた。その名前は次のような方々であつた。

- ① 長男 栄作 大正十一年五月生まれ
- ② 長女 清江 大正十三年六月生まれ
- ③ 次男 松三郎 大正十五年九月生まれ 昭和十九年十二月没
- ④ 三男 守雄 昭和四年七月生まれ 平成二十九年一月没
- ⑤ 四男 秋一 昭和六年九月生まれ
- ⑥ 次女 正子 昭和八年九月生まれ
- ⑦ 三女 道子 昭和十一年三月生まれ
- ⑧ 五男 謙之輔 昭和十三年九月生まれ
- ⑨ 六男 常夫 昭和十八年十月生まれ
- ⑩ 四女 マツ子 昭和二十一年三月幼くして死亡

そういえば松三郎の「あまさけをかこんで」という詩がある。その中に「まさかねをいじくっているし」「秋はえほんをよんでいる」「守はたけとんぼげずりだし」「ぼくは算術をしている」「みちはかっかのひぎをまくらにしてぐっすりねこみ」「かっかは半分のひぎに健をのせて乳をのませ」「兄のももひきなおしをしている」「静がちゃわんもあるか」「母の言葉

が入っている。この時すでに長女静江は奉公に出ていて家におらず、陰膳を備えようと促している。常夫やマツ子が生まれたのはこの後だったことになる。

### 大関家のその後

昭和二十六年 寒川道雄・国分一太郎・山本有三大関家訪問

生家前に墓石建立。

昭和四十九年 火災にて全焼

二〇〇四年（平成十六年）生家前に石碑建立

前なら進む どれほど荷物が重かろうと

寒川道夫（一九一〇—一九七七）

寒川道夫は一九二二年から黒條の教師として、全国的な生活綴り方に参加、松三郎はその時の教え子の一人であった。

寒川は「いさぎよく人を殺せとおしうるを教育とせじ口くさるとも」と詠んだ。この思想の故に、太平洋戦争直前の四年、治安維持法違反の疑いで新潟警察署に検挙され、拷問を受ける。

碑文は寒川の筆跡による松三郎の詩「馬」の一節。師と別れた松三郎は戦いの庭に赴き、南海にその命を沈めてしまった。

二〇〇四年九月建立

にいがた寒川道夫研究会